

第1回新潟 ESWL-Endourology 研究会

日 時 平成2年7月28日(土)
午後3時
会 場 ホテルイタリア軒

一 般 演 題

1) 軟性尿管鏡による尿管穿孔2例の治療経験

安藤 徹(燕労災病院泌尿器科)

尿管結石に対する経尿道的軟性尿管鏡を用いた碎石術は、最近盛んに行われている。この手術の際、2例の尿管穿孔を経験したが、ダブルJカテーテルやドレーンの留置をしなくても、特に大きな問題はなかった。

2) Piezolith 2200 による尿路結石治療成績と腎機能障害の検討

片山 靖士・郷 秀人
武田 正之・斎藤 俊弘
佐藤昭太郎 (新潟大学泌尿器科)
若月 俊二・高野 崇 (済生会新潟総合
病院泌尿器科)

1990年2月より2ヶ月間、Piezolith 2200を使用し、腎結石25例27腎、下部尿管結石3例に対して治療を行った。原則として外来治療とし、単腎・機能的単腎の5例に尿管ステントを留置した。治療回数は1~4回(平均1.77回)、衝撃波数は1200~11219発(平均4538発)であった。

治療成績は、残石なし19例(63.3%)、4mm以下5例(16.7%)、自然排石可能例を含めた有効率は86.7%であった。副作用は、全例に肉眼的血尿があり、嘔吐2例、発熱1例、鎮痛処置を3例で必要としたが、重篤な合併症はみられず、外来治療が可能であった。腎機能評価は^{99m}Tc-DMSA腎シンチグラフィーにより、患側腎摂取率の変化率は-8.11%であり、他のESWL機種に比較して低下の割合は低く、腎機能への影響はあるものの軽度であると考えられた。

3) ESWL(リソスター)の使用経験について

森下 英夫・中嶋 祐一(長岡赤十字病院
泌尿器科)

平成2年3月末にリソスターを導入して以来、6月までに計29例に対して体外衝撃波碎石術を施行した。うち

腎結石9例、上部尿管結石12例、下部尿管結石8例であり、その効果はGood 15例(52%)、Moderate 10例(34%)、Poor 4例(14%)であり、有効率は86%であった。特に上部尿管結石に対してはサイズにかかわらず、全例とも有効であった。しかし長径20mm以上の腎結石および下部尿管結石では複数回の治療を必要とし、必ずしも満足する成績ではなかった。なおほぼ全例に皮下出血と肉眼的血尿が見られたが、疼痛は軽微であり、重篤な副作用はなかった。

4) ESWLで破砕に難渋した症例の提示

内山 武司・阿部 禮男(新潟こばり病院
泌尿器科)

3例を提示。

1) 40歳、男。他院にて、PNL施行後の残石に対し、ESWLを2回施行したが、破砕されず、1990年5月8日当院紹介。右U1およびR3にある、10×10mm大の2個の結石であった。ESWLをさらに2回、計10000発追加するも、ほとんど破砕されず、TUL施行となった。蓚酸Ca結石であった。2) 62歳、男。他院にて2回ESWL施行されるも破砕されず、1990年4月21日当院紹介。右U1の26×11mm大の結石に対し、さらに3000発ESWLを施行した。直後のKUBでは変化なく、10日経過後、上半分の破砕像がみられたため、さらに3000発追加し、完全排石に至った。尿酸結石であった。3) 69歳、女。1990年4月19日当院紹介。左U2の15×12mmの結石に対し、3000発ずつ3回照射するも変化なく、EHLによるTULとしたが破砕されず、開腹手術となった。蓚酸Ca結石であった。以上、3例の結石はすべて表面平滑で、円形に近いものであった。

5) ESWL困難症例の検討

吉水 敦・米山 健志(竹田綜合病院)
高橋 英祐・斎藤 稔(泌尿器科)

1989年4月にシーメンス社製ESWL(体外衝撃波結石破砕装置)リソスターを導入してから1990年6月末までに治療した上部尿路結石は241個(腎結石97個、尿管結石144)で、ESWL単独での治療が困難であった症例を検討した。困難な理由は、X線で位置の確認ができなかったり、結石が破砕されなかったり、結石の量が多く排石が難しかったことなどであった。しかし併用療